

# すららアクティブラーニング

《テーマ》

平等な社会を実現するために、わたしたちにできることを提案しよう！

《僕たちのテーマ》

ジェンダー差別をなくすためにできること

《チーム名》

チーム TRY

《メンバー》

ありかわときと えいしんかん はらこう  
有川暁登 〈英進館 原校〉

やくわり ばんしょうう こ  
役割:リーダー 文章打ち込み

かわべゆうた えいしんかん はらこう  
河邊柚汰 〈英進館 原校〉

やくわり ばんしょうこうせい  
役割:文章構成

みやざきりょうすけ えいしんかん はらこう  
宮崎 涼丞 〈英進館 原校〉

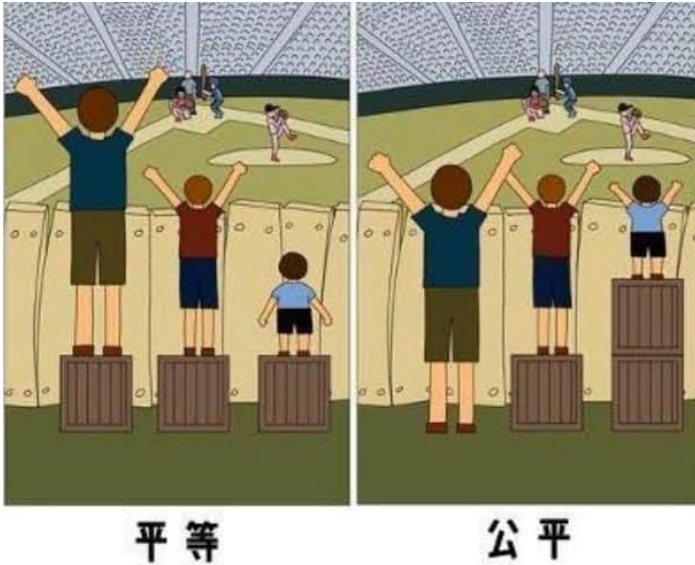
やくわり しりょうさくせい  
役割:アンケート・資料作成



- 目次:1.平等な社会とは 2P  
2.今の社会の現状①～日本全体において～ 3P  
3.今の社会の現状②～世界全体において～ 4P  
4.今の社会の現状③～アンケート結果から～ 4～6P  
5.提案①～男女地位平等化制度～ 6～7P  
6.提案②～個性尊重義務化制度～ 7～8P  
7.提案を踏まえての課題 9P  
8.まとめ 10～11P  
9. 引用したサイト(URL) 11P

# 1. 平等な社会とは

平等な社会とありますが、ここで、「平等」と似たような言葉である、「公平」という言葉があります。



左図のように、平等と公平の違いというのは、かなり違うものなのです。

簡潔に抽象化してみると、

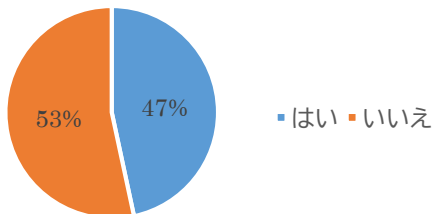
- ・「平等」は、スタートラインをそろえる
  - ・「公平」はゴールまでの距離をそろえる
- ということです。

詳しく書くと、

- ・「公平」はズルや不正がないこと
  - ・「平等」は権利が一様なこと
- です

実際に、小学4年生から中学3年生までの193人にアンケートをとった結果が左図です。

公平と平等の違いを知っていると自覚している人の割合



公平と平等の違いを知っていると自覚している人は、約半数いることがわかります。

これは、僕たちの予想に反して、違いを知っていることを自覚している人と自覚していない人が約半々という結果になりました。このことから、平等と公平の違いを知っていることを自覚していない人がまだまだいるこの社会で、考え方の間違いが起きないためにも平等と公平の違いを学んでいくことも大切なのではないかと考えました。



## 2.今の社会の現状①～日本全体において～

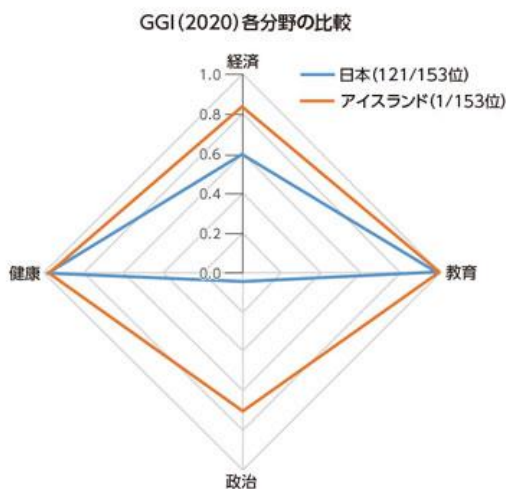
分野	スコア(順位)	昨年のスコア(順位)
経済	0.598(115位)	0.595(117位)
政治	0.049(144位)	0.081(125位)
教育	0.983 (91位)	0.994(65位)
健康	0.979 (40位)	0.979(41位)

左図は、日本の

2019年の「ジェンダー・ギャップ指数」とその数値を表したグラフです。

これらの数値は1に近いほど男女の権利

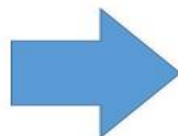
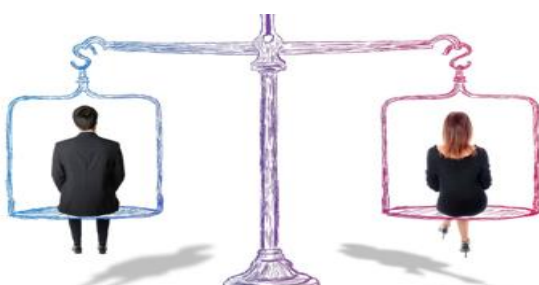
が完全平等であり、0に近いほど、完全不平等に近くなります。



左の GGI 各分野の比較を見てわかるように、ランキングはかなり下のほうに位置していることがわかります。また、健康と教育に関しては、かなりの平等率がありますが、経済と政治に関しては、かなりの不平等率になっ

ています。これは、例として、「女性議員が少ない」や「女性が安心して働ける環境が整っていない」などが挙げられます。

このように全体でみるとまだ平等な社会とは言えない状況です。



### 3. 今の社会の現状②～世界全体において～

次に、世界全体で見たときの社会の現状について話します。

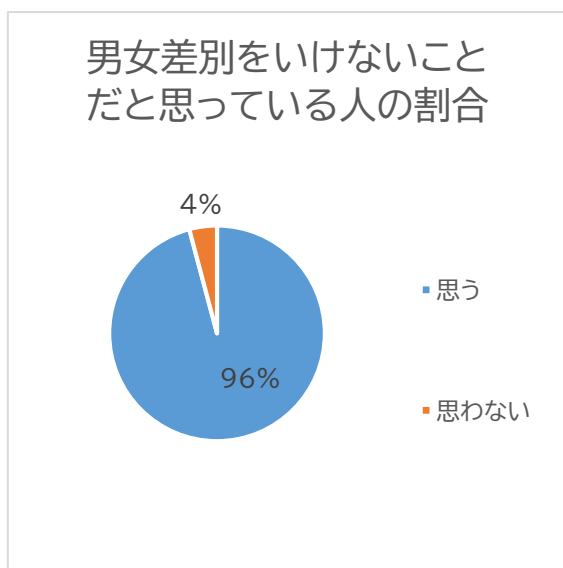


左図は、「SDGs」の、5番ジェンダー平等を実現しようの画像です。

「SDGs」とは 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことです。

このように、世界全体で行っている取り組みの一つに、あげられるほどジェンダー差別は、問題化しているといえます。

### 4. 今の社会の現状③～アンケート結果から～



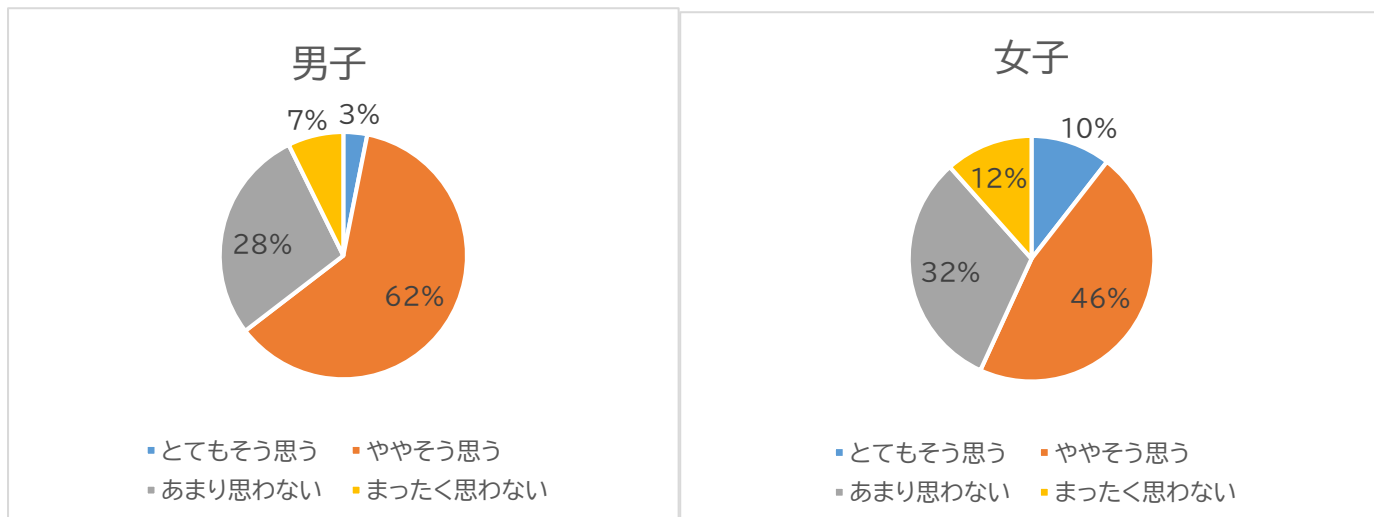
左図は小中学生 193 人に左図のような内容でアンケートをとった結果です。見てわかるように男女差別をいけないことだと思っている人の割合は、ほぼ100%になっています。ですが、このような考えを持っている人が大多数にもかかわらず、男女差別はなくなっていません。

例えばどんなことが男女差別なのか、アンケートをとったところ、学校の校則が性別によって違うこと(中3・女子)やプリクラを女子しか使えないこと(中2・女子、男子)、「男だから・女だから」という言葉を言っている人がいる(小6・男子)、男

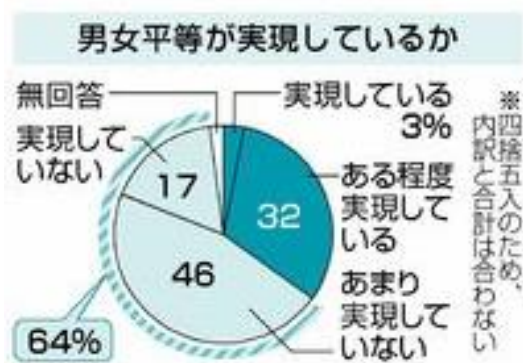
子と女子で体力テストの基準が違うこと(中2・男子)などがあがりました。



また、「いま、社会では男女平等社会を作ろうとしています。実際に実現に向かってはいると思いますか？」という内容で男女別でアンケートを取った結果は、下図のようになりました。



これを見たところ、男子と女子では考え方に、あまり差がないことが分かりました。それに半数以上の人、社会では男女平等社会が進んでいると考えていることがわかりました。



左図は、インターネットから引用した世間(大人)の意見です。こちらは、「実現していない」という意見が半数以上になっています。

このことから予想できることとして、

子供の視点から見ると、男女平等社会が進んでいると見えていて、

大人の視点から見ると、男女平等社会はあまり進んでないように見えている、

ということになります。 また、2つ目の「大人の視点から見ると、男女平等社会はあまり進んでないように見えている」ということから考えられることとして、大人になると経験する男女不平等、すなわち職場での男女平等が進んでないのではないかということが考えられます。

このようなことから、一人一人の意見を聞いても、男女平等社会はまだまだ実現できていないところがあると感じました。

## 5.提案①～男女地位平等化制度～

しかし、実際にこのような問題を解決するために日本では、様々な法律や制度が作られています。ですが、完全な解決には至っていません。

そのため、僕たちは、今の社会の現状を変えるためにするべき取り組みとして、2つ提案を出します。

1つ目は、「男女地位平等化制度」です。

この制度の具体的な取り組みとして、



1. 女性議員を増やし、女性議員は国会の1/3以上にする  
女性の公演の場を増やす→男性からだけでなく、女性からも議員が多数出られることで、女性の意見も尊重した社会になることが見込まれる



2. 人を指導する立場の人(先生・職場のリーダー)などに、男女平等に関する取り組みの研修を行う→その人たちが教えているところに説明・実施をすることで各地に取り組みが広まっていく



3. 学生などを対象にした男女平等の公演を行う  
→学生たちが男女差別について知り男女平等  
に対する意識の変化が見込まれる。

この一つの政策だけでも、日本全体の男女平等に関する知識や考え方が正しいものになり、頭の中に定着すると思います。

## 6. 提案②～個性尊重義務化制度～

2つ目は「個性尊重義務化制度」です。

この制度の具体的な取り組みは、大人(高校生～高齢者)と子供(小学生～中学生)の二つに分かれていて、それぞれで規則と罰則が違います。

大人 ver.→ 規則:ハラスメントの禁止(ハラスメントの定義にのっとして)

子供に対して「男だから～」「女だから～」ということを禁止する

男女の地位・給料の統一(同じ職業・職位における場合のみ)

罰則:謹慎処分、停止処分などを行う。または、罰金など

子供 ver.→ 規則:いじめなどの禁止(陰口・冷やかし・暴行など)

友達同士での「男なのに～○○」「女なのに～○○」の禁止

上の二つを校則に追加する

罰則: 通知表への記入、先生からの指導など

具体的に表を作ってみると、

## 個性尊重義務化制度 規則と罰則

### ・大人

・規則:ハラスメントの禁止(ハラスメントの定義にのっとして)

子供に対して「男だから～」「女だから～」ということを禁止する。

男女の地位・給料の統一(同じ職業・職位における場合のみ)

・罰則: 謹慎処分、停止処分などを行う。または、罰金など

### ・子供

・規則:いじめなどの禁止(陰口・冷やかし・暴行など)

友達同士での

「男なのに～○○」

「女なのに～○○」の禁止

上の二つを校則に追加する

・罰則: 通知表への記入、先生からの指導など

以上、二つの取り組みをすることで今の社会の現状をすべて変えることはできないか

もしれませんが、現状を少なからず変えることができると思います。



## 7. 提案を踏まえての課題

ですが、実際、この提案にも少しの課題があります。

まず一つ目の課題として、男女差別に対する認識が甘いというところ です。

認識が甘いと、上記の提案などを行いにくい環境が自然と整ってしまいます

二つ目は、そもそも政治家たちに自分たちの考えを伝える手段がないことです。

素晴らしいアイデアを持っているのに世界や日本の政治家などに発信できない環境に

今の社会はなっています。

なので、政治家などに相談できる専用窓口や発表できる特設サイトなどを作ってほし

いと考えています。

そのためにもいくつかの例を提案したいと思います。






下図は、上記で提案した、特設サイトの例を

Power Point で作ってみたものです。

政治家へ意見・考え 提案 質問 ができる  
スペシャル〇〇サイト！！

コメントを追加～～

送信する >

3分前～	件名:トイレについて	男女でトイレの作りに差が～～	 PDFを見る
12分前～	件名:体力テスト	男女でテストの基準が違うの～～	 PDFを見る
15分前～	件名:新しい法律の提案	〇〇で〇〇をすることを禁～～	 PDFを見る
17分前～	件名:質問	普段、どのような仕事をしてい～～	 PDFを見る
26分前～	件名:質問	なぜ、金融機関は危機に陥って～～	 PDFを見る

## 9.まとめ・感想

今回は、初めてのすららアクティブラーニングのレポートで僕たちは、男女平等について考えましたが、今の社会の現状では、とても男女平等社会になっているとは言えない状況でした。しかし、僕たちの提案のように国が改善していくという明確な意思を持ち、企画やプロジェクトなどを考えて実行に移してくれれば、男女平等社会もそう遠くはないということがわかりました。

### 個人の感想

有川： 資料作成 文章打ち込み	今回のすららアクティブラーニングに参加しようと思った理由はなにかみんなで活動できることを探しているときに先生が、教えてくれたからです。議題を決め、それについて話し合い、資料が必要な時はインターネットで探したりアンケートを作ったりして…と色々なことをしてようやく完成した時の気持ちは今までに味わったことのない達成感でした。ほかにも、今回のレポート制作を通して男女平等社会の大切さを知りました。なので、男女平等社会にするためにできることをこれからもしていきたいと思います。今回の経験を通して培った力をほかのところにも応用していきたいと思います。
河邊： 文章構成 集計	今回のアクティブラーニングを通して、男女差別が今の社会の深刻な問題になっていることや、平等と公平の違いなどがわかりました。それに加えて仲間と協力する大切さや仲間と頑張った時の達成感、仲間の大切さを改めて実感するととても良いきっかけになりました。仲間たちとは一緒に笑ったり、一緒に頑張ったりしてとても楽しかったし、とてもいい思い出になりました。今、僕はこのすららアクティブラーニングをしてみないかと言ってくれた先生、冗談を言ったりしてその場を盛り上げてくれながらも文章打ち込みをしてくれた有川君、みんなをまとめたり資料やアンケートを作ってくれた宮崎君には感謝の気持ちでいっぱいです。
宮崎： アンケート 作成 集計	今までは男女平等について深く考えることはなかったけど、このすららアクティブラーニングでみんなで話したことで自分の身近なところでも男女差別が起こっていることがわかりました。そして、小さなことでもいいから男女平等な社会の実現のために、できることをやらなければいけないと思いました。普段、ほかの学校の人と触れ合うことはあまりないし、メンバーの二人とも仲を深めることができたのでとてもいい経験になりました。この経験を生かして、これからの社会を作る一人として今後の社会の発展に少しでも貢献できればいいなと思いました。

## 10. 引用したサイト(URL)

公平と平等について

<https://www.bizmentor.jp/blog/210223a>

SDGs

[https://sdgs-support.or.jp/journal/goal\\_05/](https://sdgs-support.or.jp/journal/goal_05/)

事業での取り組み

[https://www.jaish.gr.jp/information/mental/120120\\_01.pdf](https://www.jaish.gr.jp/information/mental/120120_01.pdf)

ハラスメントの定義

<https://www.no-hatassment.mhlw.go.jp/foundation/dbefinition/about>

男女平等のアンケート グラフ

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e666664d673f7d5e40f5188c9908be5f15d751b1>

ジェンダーギャップ指数2019

[https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2019/202003/202003\\_07.html](https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2019/202003/202003_07.html)